

播磨灘北西部、備讃瀬戸、燧灘東部における 類型指定を行うために必要な情報の整理について

1. 播磨灘北西部

(1) 水域の概況

播磨灘は瀬戸内海の東側に位置し、淡路島と小豆島にはさまれた海域で、外海との水の入れ替わりが東側では明石海峡及び鳴門海峡に制限された海域である。播磨灘北西部は、家島諸島と小豆島を結んだ線より北側の海域である。

「環境基準に係る水域及び地域の指定の事務に関する政令（平成5年11月19日政令371号）では、播磨灘北西部は相生市金ヶ崎と兵庫県西島手繰干埼を結ぶ線、同地点と香川県小豆島藤崎を結ぶ線、同地点と岡山県稲鼻を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域として定義している。流域面積は約979 km²、水面面積は314 km²に及ぶ海域である。

(2) 魚介類の生息状況

・日本の有用魚介類の生息状況

日本の沿岸海域は暖流と寒流の影響を受け、海岸・海底地形が変化に富むことから、種々の魚介類が生息しており、その中でも海産魚類は3,000種以上が生息していると言われている。

日本の沿岸海域に生息する魚介類には、マグロ類、カツオ類及びサバ類等の外海性の種、ズワイガニ等の深海性の種、カレイ類やタイ類及び貝類等の沿岸・内湾性の種に大別される。

・播磨灘北西部における魚介類の生息状況

既存の調査によれば、播磨灘北西部を含む瀬戸内海における主な漁獲対象種は以下のとおりである。

魚類：イカナゴ、コノシロ、マコガレイ・イシガレイ・メイタガレイ、ヒラメ、クロダイ、マダイ、スズキ、ニベ、シログチ、ベラ、カサゴ、メバル、アイナメ、トカゲエソ、サワラ、マナガツオ、カタクチイワシ、タチウオ、サバ、マアジ、マルアジ、ハモ、マエソ、マイワシ、マアナゴ、ボラ、ブリ、イボダイ、シロザメ、アカエイ、タマガンゾウビラメ、イヌノシタ、イサキ、シイラ、トラフグ、カワハギ、アカカマス、ウナギ

貝類：アサリ、アカガイ、サルボウ、タイラギ、トリガイ、バカガイ、ハマグリ、マテガイ、サザエ

イカ・タコ類：マダコ、イイダコ、テナガタコ、コウイカ、スルメイカ

エビ・カニ類：ガザミ、シャコ、クルマエビ、アカエビ、キシエビ、ヨシエビ

(3) 水質

・水域類型指定状況（図1.1）

播磨灘北西部は全域を1水域として類型指定されている。水質環境基準の生活環境項目についてはA類型、全窒素、全燐に係る環境基準の水域類型は 類型となっている。

・ 水質汚濁の状況（表 1.1）

COD75%値の過去3年間の水質測定結果からみると、すべての地点（A類型）で環境基準を超過している年がみられ、3年間とも超過している地点は岡山県で10地点中3地点、兵庫県では4地点中3地点である。

全窒素平均値の過去3年間の水質測定結果からみると、すべての地点（A類型）で基準値を満足している。

全燐平均値の過去3年間の水質測定結果からみると、5地点中2地点で1年のみ基準値を超過しているが、その他では基準値を満足している。

・ 亜鉛の水質の状況（図 1.2、表 1.1）

過去3年間の調査の結果、すべての地点で0.01mg/L(生物特A類型の環境基準値)以下であった。

・ ノニルフェノールの水質の状況

瀬戸内海を含む、公共用水域の海域における調査では、0.0007mg/L(生物特A類型の環境基準値)を超過する地点はなかった（「水生生物の保全に係る水質環境基準の項目追加等について（第1次答申）」平成24年3月より）。

・ LASの水質の状況

瀬戸内海を含む、公共用水域の海域における調査では、0.006mg/L(生物特A類型の環境基準値)を超過する地点はなかった（「水生生物の保全に係る水質環境基準の項目追加等について（第2次答申）」平成24年12月より）。

(4) 産卵・産仔場及び幼稚子の生育場の状況

一般的環境条件（地形・水質等）

・ 地理条件

日本近海に生息する内湾性の魚介類は、産卵・産仔場及び生育場（以下「産卵場等」という。）として干潟（その周辺の浅海域を含む、以下同じ。）、藻場（その周辺の浅海域を含む、以下同じ。）、浅場及び珊瑚礁を利用するものが多く、水深を含む海底地形は魚介類の産卵場等の形成に重要な役割を果たしている。なお、過半の種が水深30m以浅の水深帯を産卵場等として利用しており、以後30m以浅の海域を浅場とする。

また、底質は、砂泥、礫、転石及び岩礁等があり、内湾性の魚介類は、産卵場等として砂泥域や岩礁域等を利用するものが多く、魚介類の生息に適しているものと考えられる。

・ 水質条件

魚介類の生息条件にDO（溶存酸素濃度）は極めて重要であり、概ね3mg/L以上があれば魚介類は生息できるものと言われている。なお、閉鎖性の高い内湾域では、夏季に貧酸素水塊の発生が問題となっているが、干潟は貧酸素水塊の影響を受けにくいいため、魚介類の生育場や成魚の避難場所としても利用されている。

播磨灘北西部における環境の状況

・ 底質の状況（図 1.3）

播磨灘北西部の底質分布は、岡山県及び兵庫県側の岸寄りから水深の変化とも相まって、岸側から粘土質シルト、砂質シルト、シルト質砂という帯状に変化している。北側岸部は粘土質シルトであり、魚介類の産卵や生育に適する水域とは考えにくい。

・ 保護水面等に指定されている水域

播磨灘北西部には水産資源保護法に基づく保護水面等に指定されている水域は存在しない。

・ 干潟の存在状況（図 1.4，表 1.2）

播磨灘北西部の干潟は、北西部島しょ部周辺における河口部の前浜に部分的にみられる。真尾鼻（29ha）、木生湾（31ha）、久々井湾（17ha）が存在する。

・ 藻場の存在状況（図 1.5、表 1.3）

播磨灘北西部の藻場は、北西部島しょ部周辺にみられる。南海岸にはガラモ場を中心とした藻場が、湾などではアマモ場が存在する。規模が大きい藻場として、間口（11ha）、長島南西（10ha）、鵜ノ石鼻（9.0ha）、布浜（9.0ha）などが存在し、藻場の総面積は 144ha である。

・ 浅場の存在状況（図 1.6）

播磨灘北西部の水深は、岡山県、兵庫県の陸側から沖側にかけて深くなっており、小豆島北東部を除けば 30m より深い部分はなく、ある程度の広がりを持った浅場として以下の水域がある。

中央部の浅場。

・ 水質の状況（図 1.7）

播磨灘北西部の夏季に下層 DO は、顕著な勾配がみられず、下層 DO が 3mg/L 以下の貧酸素水域はみられない。

播磨灘北西部における魚介類の生息状況

・ 播磨灘北西部における主要な魚介類の選定（表 1.4）

播磨灘北西部を含む瀬戸内海における主な漁獲対象種は前記に掲げる 60 種あるが、これらの種のうち、近年の漁獲量、魚介類の生活型及び産卵や幼稚仔の生育にあたって、干潟・藻場・浅場等特定の場に依存する主要種として、スズキ、マコガレイ、イシガレイ、ヒラメ、マダイ、クルマエビ、ガザミの 7 種が挙げられる。

- ・ 主要魚介類の生態特性からみて好適と考えられる産卵場等（図 1.8）

上記により選定した 7 種について主要な干潟・藻場・浅場で産卵・生育に好適と考えられる水域は、各産卵・産仔期等の産卵場等における底質の状況や貧酸素水塊の影響、水深を考慮すると、以下のとおりである。

スズキ

生育場として北西部島しょ部周辺の藻場。

マコガレイ

生育場として北西部島しょ部周辺の干潟・藻場、産卵場及び生育場として中央部の浅場。

イシガレイ

生育場として北西部島しょ部周辺の干潟、産卵場及び生育場として中央部の浅場。

ヒラメ

産卵場及び生育場として中央部の浅場。

マダイ

生育場として北西部島しょ部周辺の藻場及び中央部の浅場。

クルマエビ

生育場として北西部島しょ部周辺の干潟、産卵場及び生育場として中央部の浅場。

ガザミ

生育場として北西部島しょ部周辺の干潟、産卵場及び生育場として中央部の浅場。

- ・ 漁場分布からみた干潟・藻場の利用状況（表 1.6、図 1.9）

平成 11 年に水産庁等が実施した漁場環境・水産資源状況把握調査から、漁場分布と重ね合わせてみると、スズキは北西部島しょ部周辺の藻場、カレイ類（マコガレイ、イシガレイ）、ヒラメ、ガザミは中央部の浅場、クルマエビは北西部島しょ部周辺の干潟及び北東部で産卵を行っている」と類推される。なお、マダイについては当該海域に濃密な利用水域はない。

- ・ 魚卵・稚仔魚の分布等からみた干潟・藻場の利用状況（表 1.7、図 1.10）

環境省が平成 21 年度に実施した播磨灘北西部における魚卵及び稚仔魚の調査結果からみて、北西部島しょ部周辺の干潟・藻場は、魚類の産卵及び生育場として利用されていると考えられる。

1. 播磨灘北西部

1.1 類型指定を行うために必要な情報の整理

(1) 水域類型指定状況	6
(2) 近年の水質の状況	
・ COD	7
・ 全窒素、全燐	8
・ 全亜鉛	8
(3) 底質状況	11
(4) 干潟、藻場、浅場の状況	
・ 主要な干潟・藻場の分布	12
・ 主要な浅場	15
(5) 下層 D0 の分布	
・ 夏季下層 D0 の分布	16
(6) 主要魚介類	
・ 主要魚介類の選定結果	17
・ 生態特性	18
・ 好適な水域	20
・ 主要魚介類の漁場分布からみた干潟・藻場等の利用状況	24
・ 漁場分布	25
・ 主要魚種の産卵場及び生育場について	28
・ 魚卵及び稚仔魚の出現状況	29

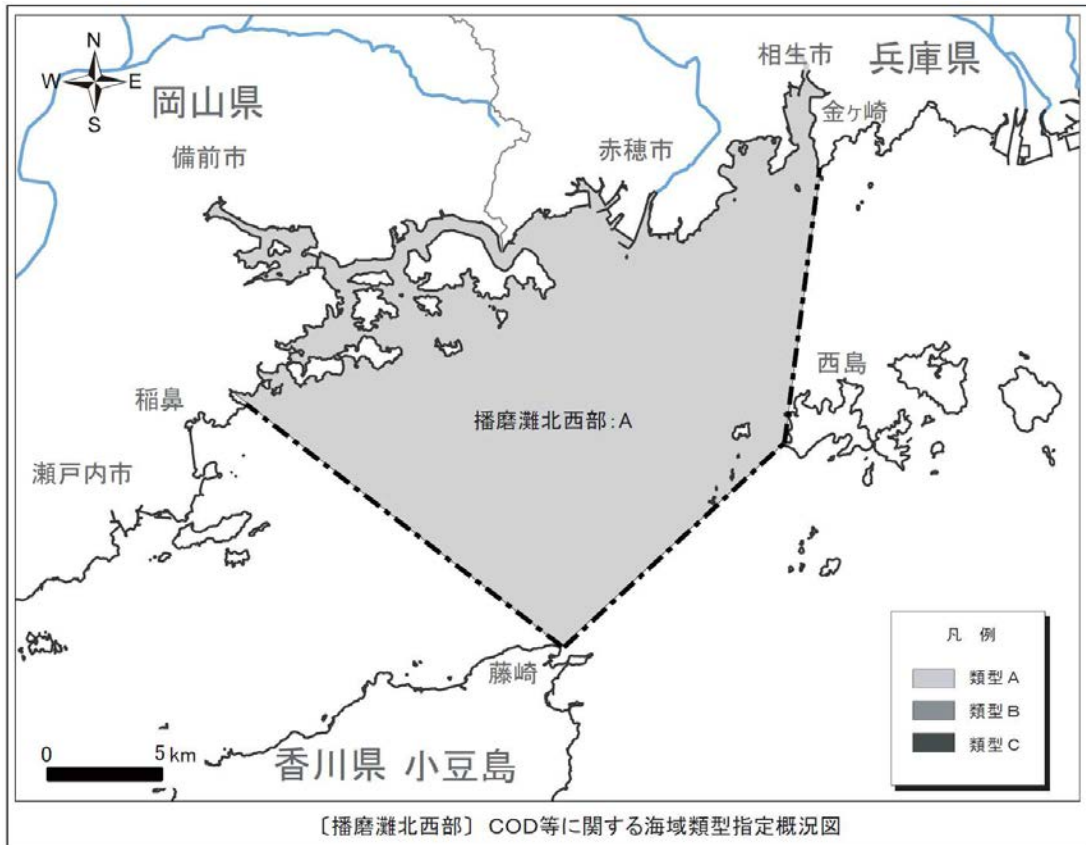


図 1.1(1) 水質汚濁にかかる環境基準の類型指定状況 (COD)

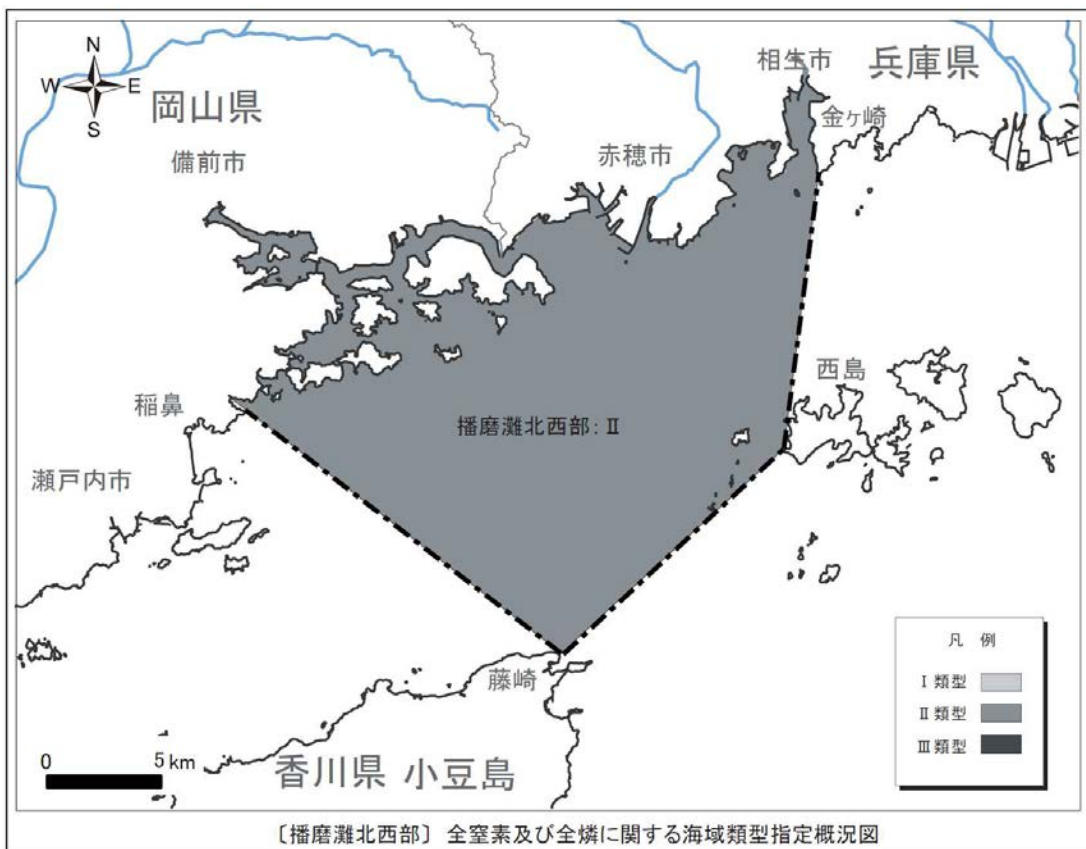


図 1.1(2) 水質汚濁にかかる環境基準の類型指定状況 (全窒素・全燐)

表 1.1(1) 近年の水質の状況 (COD)

水域名	類型	県及び地点名	年度	COD				基準値
				最小値	最大値	平均値	75%値	
播磨灘北西部	A	岡山県609-01	H21	1.3	4.3	2.1	2.2	2.0
			H22	1.3	3.0	2.0	2.4	
			H23	0.9	2.3	1.6	1.9	
		岡山県609-02	H21	1.5	5.3	2.3	2.5	
			H22	1.3	3.3	2.1	2.3	
			H23	1.0	2.6	1.7	1.9	
		岡山県609-51	H21	1.6	3.6	2.3	2.6	
			H22	1.8	4.2	2.7	3.6	
			H23	1.5	2.1	1.8	2.0	
		岡山県609-52	H21	1.5	4.5	2.3	2.4	
			H22	1.5	2.8	2.1	2.5	
			H23	1.4	2.2	1.8	2.2	
		岡山県609-53	H21	1.2	4.5	2.1	2.2	
			H22	1.4	2.4	1.8	1.9	
			H23	1.1	2.1	1.7	1.9	
		岡山県609-54	H21	1.6	4.8	2.3	2.4	
			H22	1.7	3.5	2.3	2.4	
			H23	1.6	2.4	1.9	2.1	
		岡山県609-55	H21	1.7	4.5	2.6	2.7	
			H22	2.0	5.5	3.2	4.3	
			H23	1.5	3.3	2.4	3.2	
		岡山県609-56	H21	1.2	4.2	2.1	2.2	
			H22	1.4	2.6	1.8	2.1	
			H23	1.1	1.9	1.5	1.7	
		岡山県609-57	H21	1.4	3.9	2.3	2.0	
			H22	1.2	2.6	1.9	2.3	
			H23	1.4	1.9	1.7	1.8	
		岡山県609-58	H21	1.4	2.8	2.2	2.4	
			H22	1.5	2.7	2.0	2.2	
			H23	1.3	1.5	1.4	1.4	
兵庫県623-02	H21	1.6	4.3	2.2	2.4			
	H22	1.8	3.8	2.2	2.1			
	H23	1.8	3.4	2.5	2.8			
兵庫県623-03	H21	1.1	2.2	1.7	1.7			
	H22	1.3	3.1	2.0	2.2			
	H23	1.4	2.8	1.9	2.0			
兵庫県623-53	H21	2.0	2.9	2.5	2.7			
	H22	1.7	3.2	2.2	2.2			
	H23	2.1	2.9	2.5	2.8			
兵庫県623-57	H21	1.8	2.8	2.3	2.6			
	H22	1.8	3.5	2.5	3.1			
	H23	2.0	3.8	2.7	2.8			

- 1) 公共用水域水質測定結果より (HP: 水環境情報総合サイト)
 2) は環境基準を超過したものを示す。

表 1.1(2) 近年の水質の状況（全窒素、全磷）

水域名	類型	県及び地点名	年度	全窒素				全磷			
				最小値	最大値	平均値	基準値	最小値	最大値	平均値	基準値
播磨灘北西部		岡山県609-01	H21	0.14	0.21	0.16	0.3	0.017	0.035	0.024	0.03
			H22	0.14	0.24	0.17		0.015	0.040	0.026	
			H23	0.06	0.27	0.15		0.013	0.046	0.027	
		岡山県609-02	H21	0.14	0.25	0.18		0.014	0.034	0.023	
			H22	0.12	0.23	0.17		0.015	0.039	0.024	
			H23	0.11	0.26	0.17		0.013	0.043	0.025	
		兵庫県623-01	H21	0.13	0.27	0.19		0.016	0.046	0.026	
			H22			0.17				0.024	
			H23			0.24				0.033	
	兵庫県623-02	H21	0.11	0.28	0.19	0.014	0.043	0.024			
		H22	0.10	0.24	0.17	0.016	0.044	0.026			
		H23	0.17	0.55	0.24	0.021	0.060	0.033			
	兵庫県623-03	H21	0.09	0.24	0.16	0.012	0.043	0.022			
		H22	0.10	0.25	0.16	0.014	0.038	0.024			
		H23	0.13	0.38	0.21	0.014	0.046	0.028			

- 1) 公共用水域水質測定結果より（HP:水環境情報総合サイト）
 2) は環境基準を超過したものを示す。

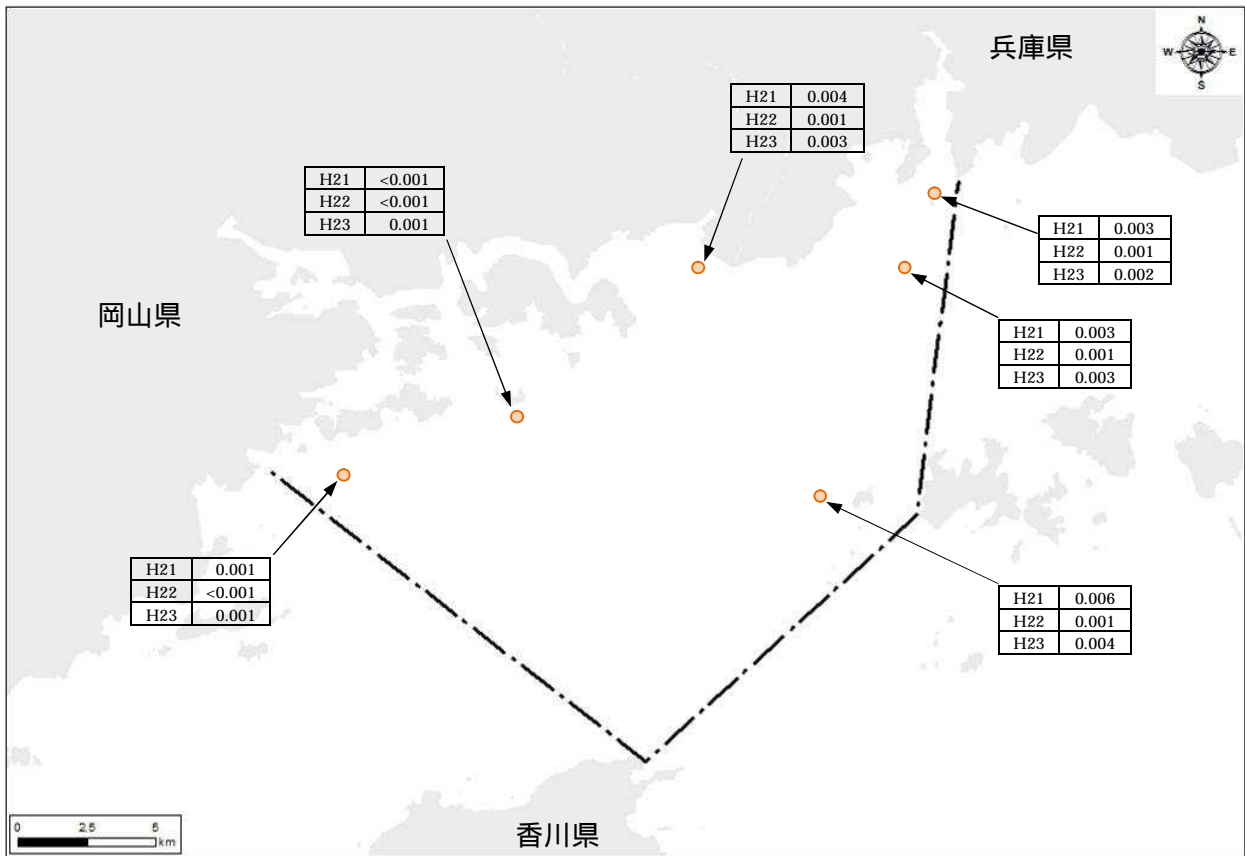
表 1.1(3) 近年の水質の状況（全亜鉛）

水域名	県及び地点名	年度	全亜鉛		
			最小値	最大値	平均値
播磨灘北西部	岡山県609-01	H21	<0.001	0.002	0.001
		H22	<0.001	<0.001	<0.001
		H23	<0.001	0.001	0.001
	岡山県609-02	H21	<0.001	<0.001	<0.001
		H22	<0.001	<0.001	<0.001
		H23	<0.001	0.003	0.001
	兵庫県623-01	H21	0.001	0.004	0.003
		H22			0.001
		H23			0.003
	兵庫県623-02	H21	0.001	0.005	0.003
		H22	0.001	0.001	0.001
		H23	0.001	0.005	0.003
	兵庫県623-03	H21	0.001	0.011	0.006
		H22	0.001	0.001	0.001
		H23	<0.001	0.006	0.004
	兵庫県623-53	H21	0.001	0.004	0.003
		H22	0.001	0.001	0.001
		H23	0.001	0.003	0.002
兵庫県623-57	H21	0.001	0.006	0.004	
	H22	0.001	0.001	0.001	
	H23	<0.001	0.004	0.003	

- 1) 公共用水域水質測定結果より（HP:水環境情報総合サイト）
 2) 水生生物保全環境基準について

類型	水生生物生息状況の適応性	基準値（全亜鉛）
生物 A	水生生物の生息する水域	0.02mg/L 以下
生物特 A	生物 A の水域のうち、水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.01mg/L 以下

- 3) 全亜鉛について、0.01mg/L 以下（無色） 、 0.01mg/L 超過 0.02mg/L 以下（青色） 、 0.02mg/L 超過（赤色） で示した。



- 1) 公共用水域水質測定結果より (HP: 水環境情報総合サイト)
- 2) 水生生物保全環境基準について

類型	水生生物生息状況の適応性	基準値 (全亜鉛)
生物 A	水生生物の生息する水域	0.02mg/L 以下
生物特 A	生物 A の水域のうち、水生生物の産卵場 (繁殖場) 又は幼稚子の生育場として特に保全が必要な水域	0.01mg/L 以下

- 3) 全亜鉛について、0.01mg/L 以下 (無色) 、0.01mg/L 超過 0.02mg/L 以下 (青色) 、0.02mg/L 超過 (赤色) で示した。

図 1.2(1) 全亜鉛の濃度分布 (年平均値)

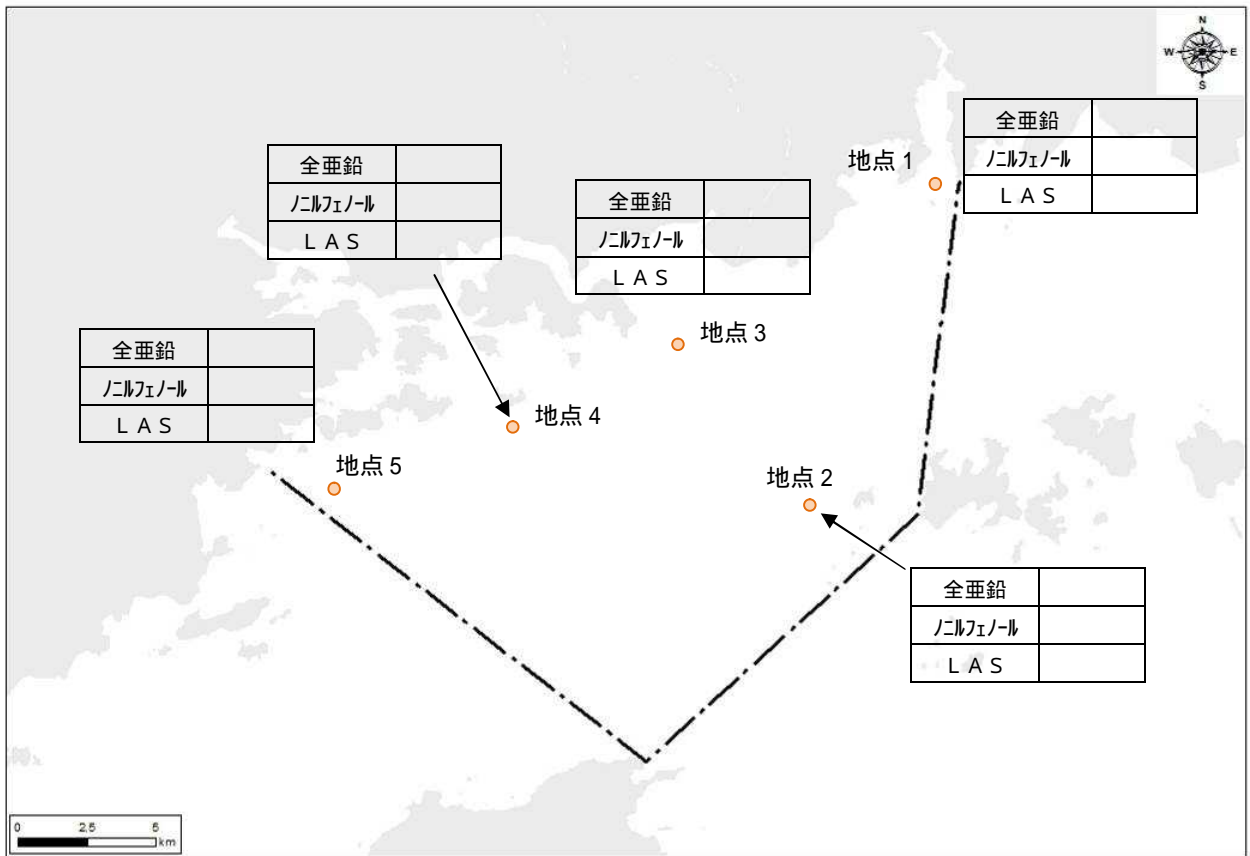
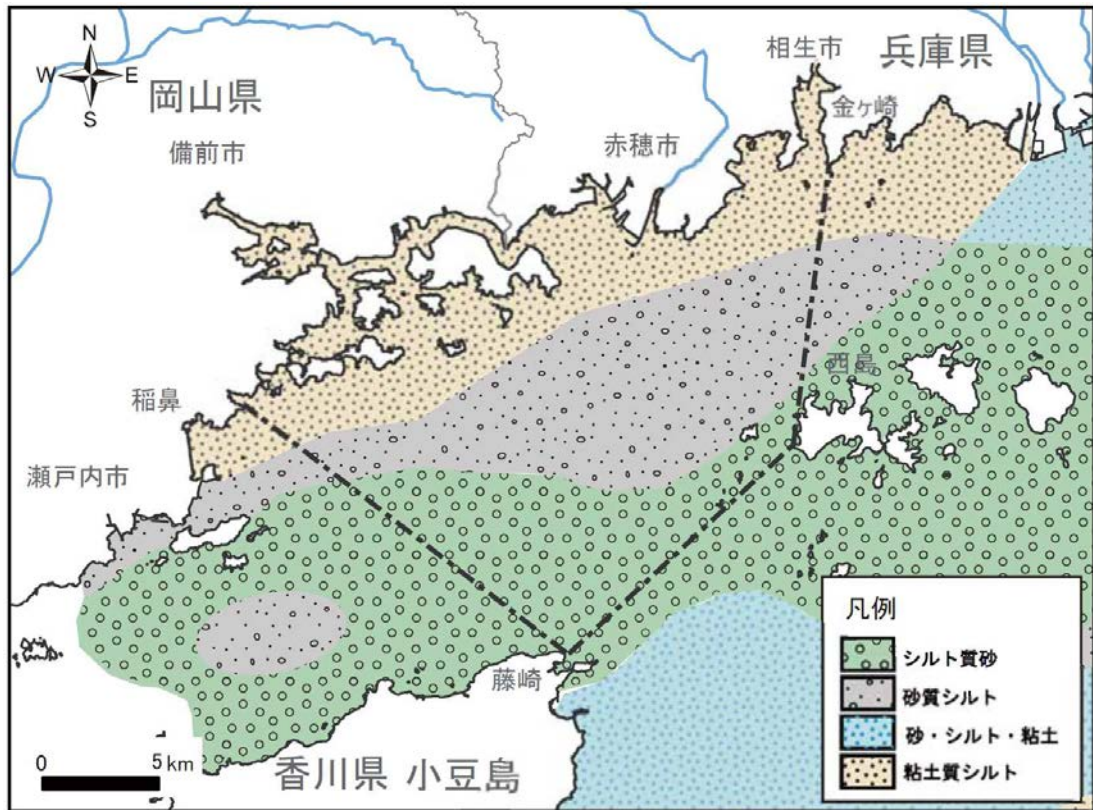


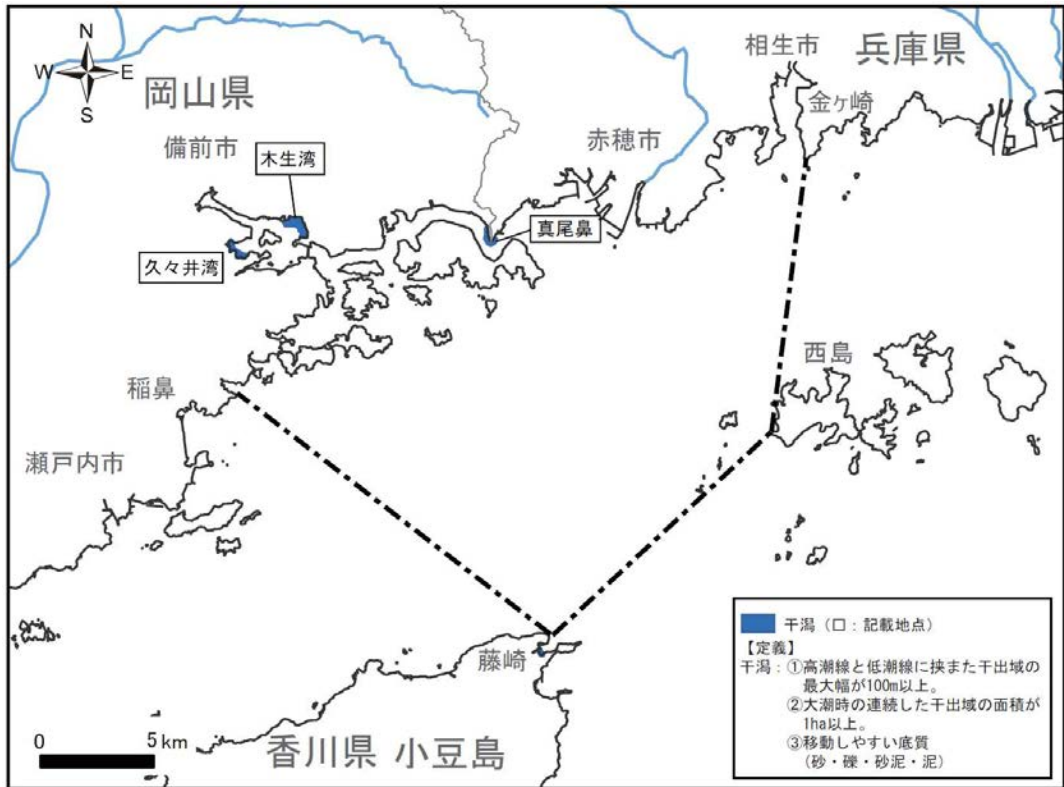
図 1.2(2) 水生生物保全環境基準項目の濃度分布（平成 25 年度調査結果速報）



出典：日本全国沿岸海洋誌(昭和 60 年)より作成

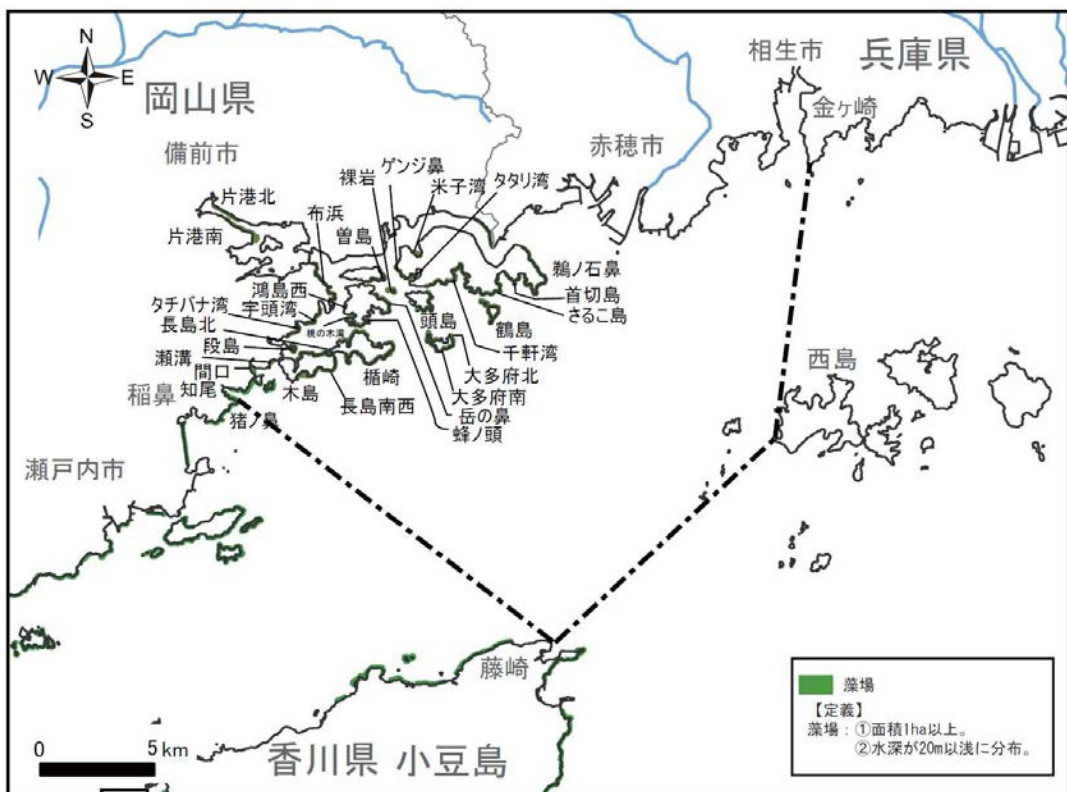
注) 砂：細粒分が 5%未満、シルト質砂：細粒分が 15%以上 50%未満、砂質シルト：細粒分が 50%以上、シルト：細粒分が 50%以上、粘土：細粒分が 50%以上、粘土質シルト：細粒分が 50%以上(砂質シルト、シルト、粘土、粘土質シルトは、液性限界等の諸指数によって工学的に分類される)

図 1.3 底質の分布状況



出典：環境省（第5回自然環境保全基礎調査 平成9～13年度）

図 1.4 主要な干潟の分布状況



出典：環境省（第5回自然環境保全基礎調査 平成9～13年度）

図 1.5 主要な藻場の分布状況

表 1.2 主要な干潟の概要

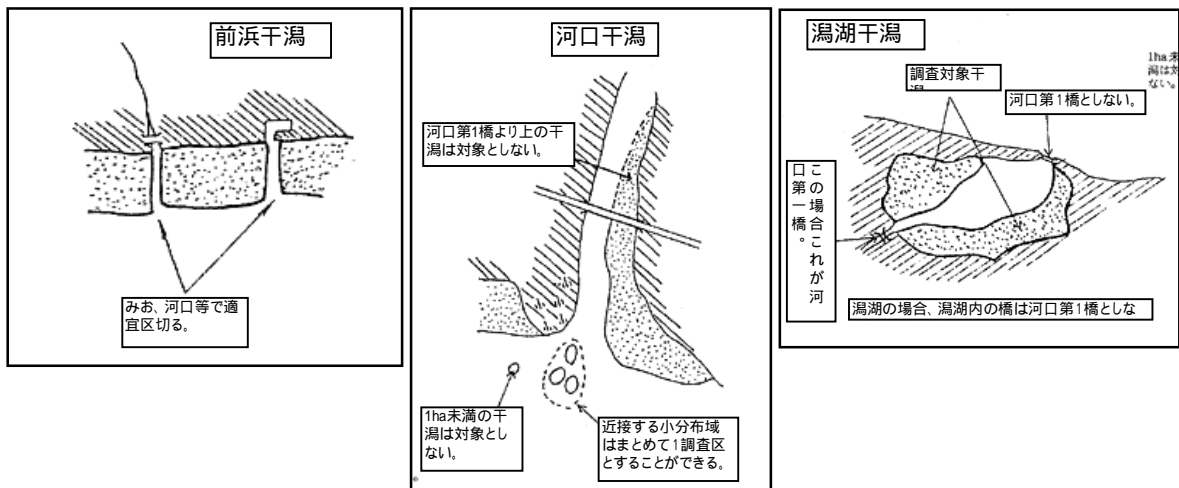
海域	府県	地名	干潟タイプ	底質	面積 (ha)
播磨灘北	岡山県	真尾鼻	前浜	泥	29.0
播磨灘北	岡山県	木生湾	前浜	泥	31.0
播磨灘北	岡山県	久々井湾	前浜	砂泥	17.0
合計					77.0

注1)対象干潟 ・高潮線と低潮線に挟まれた干出域の最大幅が100m以上であること。
 ・大潮時の連続した干出域の面積が1ha以上であること。
 ・移動しやすい底質(砂、礫、砂泥、泥)であること。

注2)干潟タイプ 下図のとおり前浜干潟、河口干潟、潟湖干潟及びその他(人工干潟等)に分類される。

注3)調査区設定方法

現在干潟の調査区設定・面積等の把握の際には、原則同タイプの干潟が連続的に分布する範囲(分布域)を1調査区とする。ただし、分布域が長大な場合は河口、みお、航路、岬角等の地形で適宜区分することができる。各タイプの調査区設定は区分基準(下図のカッコ内)に準ずる。



注4)底質: 礫: 粒径2mm以上
 砂: 0.1~2mm
 泥: 0.1mm以下
 砂泥: 砂と泥の混合

出典: 環境省(第5回自然環境保全基礎調査 平成9~13年度)

表 1.3 主要な藻場の概要

海域	府県	地名	藻場タイプ	疎密度	面積 (ha)
播磨灘北西部	岡山県	真尾鼻	ガラモ場	密生	7.0
播磨灘北西部	岡山県	鷓ノ石鼻	ガラモ場	密生	9.0
播磨灘北西部	岡山県	さるこ島	ガラモ場	密生	2.0
播磨灘北西部	岡山県	首切島	ガラモ場	濃生	6.0
播磨灘北西部	岡山県	千軒湾	アマモ場、ガラモ場	密生	4.0
播磨灘北西部	岡山県	ゲンジ湾	アマモ場	密生	4.0
播磨灘北西部	岡山県	タタリ鼻	ガラモ場	疎生	1.0
播磨灘北西部	岡山県	米子湾	アマモ場	濃生	2.0
播磨灘北西部	岡山県	鶴島	ガラモ場	濃生	7.0
播磨灘北西部	岡山県	頭島	ガラモ場	濃生	6.0
播磨灘北西部	岡山県	大多府南	ガラモ場	疎生	7.0
播磨灘北西部	岡山県	大多府北	アマモ場	濃生	2.0
播磨灘北西部	岡山県	曾島	ガラモ場	密生	2.0
播磨灘北西部	岡山県	裸岩	ガラモ場、ワカメ場	密生	2.0
播磨灘北西部	岡山県	鴻島西	アマモ場	密生	2.0
播磨灘北西部	岡山県	岳ノ鼻	ガラモ場	疎生	3.0
播磨灘北西部	岡山県	蛭ノ頭	ガラモ場、アオサ・アオリ場	疎生	3.0
播磨灘北西部	岡山県	桃ノ木湾	アマモ場	疎生	2.0
播磨灘北西部	岡山県	長島東	アマモ場、ガラモ場、アオサ・アオリ場	密生	3.0
播磨灘北西部	岡山県	楯崎	ガラモ場	濃生	7.0
播磨灘北西部	岡山県	長島北	ガラモ場、アオサ・アオリ場	疎生	4.0
播磨灘北西部	岡山県	片上港北	アマモ場	濃生	7.0
播磨灘北西部	岡山県	片上港南	アマモ場	濃生	8.0
播磨灘北西部	岡山県	布浜	ガラモ場、アオサ・アオリ場	密生	9.0
播磨灘北西部	岡山県	宇頭湾	ガラモ場、アオサ・アオリ場	疎生	2.0
播磨灘北西部	岡山県	タチバナ湾	ガラモ場、アオサ・アオリ場	疎生	2.0
播磨灘北西部	岡山県	段島	ガラモ場、アオサ・アオリ場	疎生	1.0
播磨灘北西部	岡山県	長島北	アオサ・アオリ場	疎生	3.0
播磨灘北西部	岡山県	長島南西	ガラモ場、テングサ場、アオサ・アオリ場	密生	10.0
播磨灘北西部	岡山県	瀬溝	アマモ場、ガラモ場、アオサ・アオリ場	疎生	3.0
播磨灘北西部	岡山県	間口	アオサ・アオリ場	密生	11.0
播磨灘北西部	岡山県	木島	アマモ場、ガラモ場、アオサ・アオリ場	疎生	3.0
合計					144.0

出典：環境省（第5回自然環境保全基礎調査 平成9～13年度）

注1) 対象藻場 ・面積が1ha以上であること。
・水深が10m以浅に分布すること。

注2) 藻場タイプ アマモ場：アマモ、コアマモ等が代表種(優占種)となっている藻場。
ガラモ場：ホンダワラ類・ウミトナリ等が代表種(優占種)となっている藻場。
アラメ場：アラメ・カジメ・クロメ等が代表種(優占種)となっている藻場。
ワカメ場：ワカメ・ヒロメ等が代表種(優占種)となっている藻場。

注3) 疎密度： 濃生：海底面がほとんど植生で覆われている。
密生：海底面より植生の方が多い。
疎生：植生より海底面の方が多い。

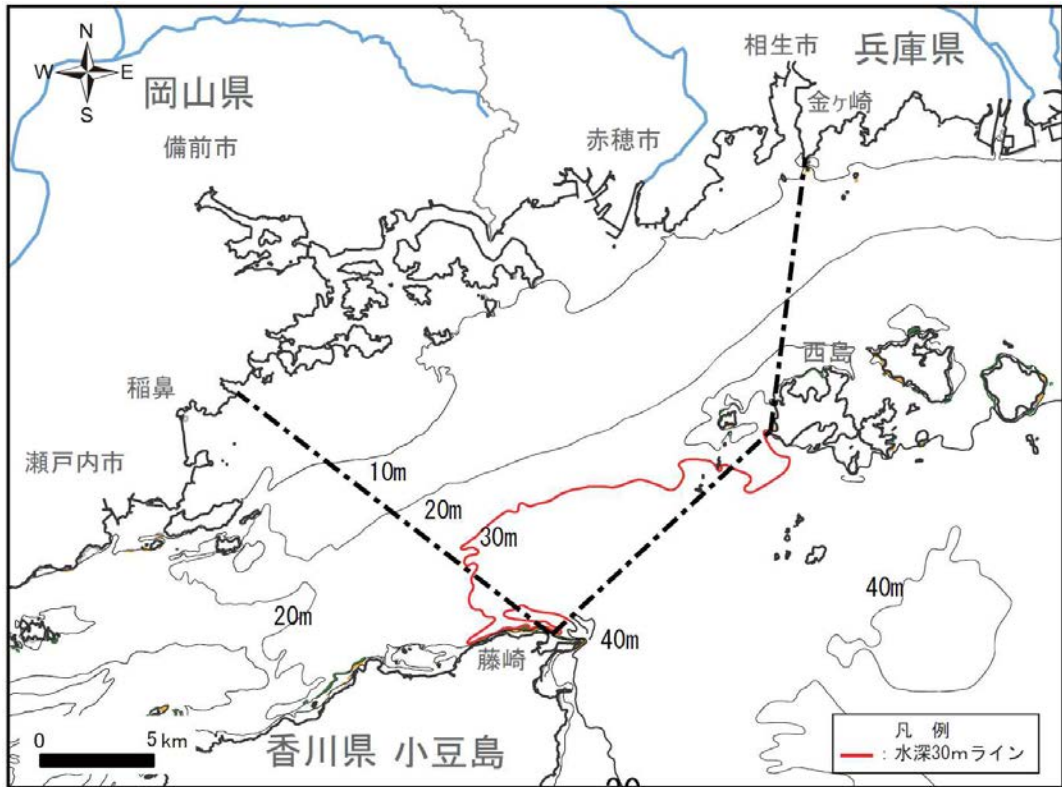
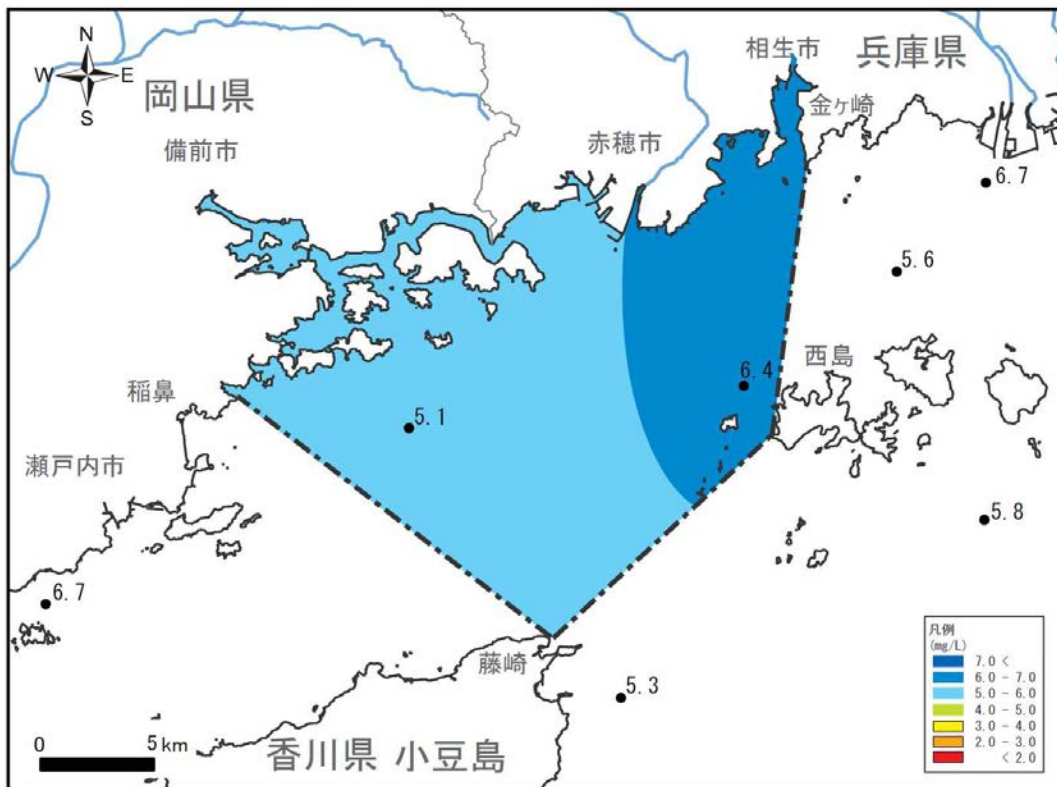


図 1.6 主要な浅場



出典：環境省広域総合水質調査結果（採水位置：海底上1m）

注1）平成19～23年の夏季下層DOのうち、濃度が最も低くなった平成20年を掲載した。

注2）測定位置：海底直上1m

図1.7 夏季下層DOの分布状況（平成20年）

表 1.4 主要魚介類の選定結果

瀬戸内海における主な魚介類		周年定住種	漁獲量上位種	保護水面対象種	産卵場・生育場が藻場・干潟等特定域に該当する種	選定結果	選定理由	
魚類	イカナゴ			保護水面なし				
	コノシロ							
	マコガレイ						生育場が干潟に依存する。	
	イシガレイ							生育場が干潟に依存する。
	メイタガレイ							
	ヒラメ							生育場が干潟に依存する。
	タマガンゾウビラメ							
	イヌノシタ							
	クロダイ							
	マダイ							生育場が砂浜性藻場に依存する。
	ヘダイ							
	イボダイ							
	スズキ							生育場が砂浜性藻場に依存する。
	アカカマス							
	イサキ							
	シイラ							
	ニベ							
	シログチ							
	ペラ							
	カサゴ							
	メバル							
	アイナメ							
	トカゲエソ							
	マエソ							
	サワラ							
	マナガツオ							
	カタクチイワシ(シラス)							
	タチウオ							
	サバ							
	マアジ							
	マルアジ							
	ブリ							
マイワシ								
ハモ								
マアナゴ								
ウナギ								
ボラ								
カワハギ								
トラフグ								
シロザメ								
アカエイ								
イカ・タコ類	マダコ							
	イイダコ							
	テナガダコ							
	コウイカ							
エビ・カニ類	スルメイカ							
	ガザミ						生育場が干潟に依存する。	
	シャコ							
	クルマエビ						生育場が干潟に依存する。	
貝類	アカエビ							
	キシエビ							
	ヨシエビ							
	アサリ							
	アカガイ							
	サルボウ							
	タイラギ							
	トリガイ							
	バカガイ							
	ハマグリ							
マテガイ								
サザエ								
棘皮類							マナマコ	

主な魚介類：以下の文献により抽出した。
 「瀬戸内海の生物資源と環境（岡市ら,1996）」
 「瀬戸内海のさかな（瀬戸内海水産開発協議会編,1997）」
 「日本全国沿岸海洋誌（日本全国沿岸海洋研究部会編,1985）」
 周年定住種：以下の文献を参考に判断した。
 沿岸至近域における海洋生物の生態知見（魚類・イカタコ類編）（（財）海洋生物研究所,1991）
 沿岸至近域における海洋生物の生態知見（貝類・甲殻類・ウニ類編）（（財）海洋生物研究所,1991）
 新版魚類学（下）改訂版（落合明・田中克,1998）
 水産生物の生活史と生態（（社）日本水産資源保護協会,1985）
 水産生物の生活史と生態（続）（（社）日本水産資源保護協会,1986）
 水生生物生態資料（（社）日本水産資源保護協会,1981）
 水生生物生態資料（続）（（社）日本水産資源保護協会,1983）
 漁獲量上位種：の魚種のうち、「瀬戸内海及び太平洋南区における漁業動向（平成7年～16年）中国四国農政局統計部」の漁獲量が50位以内の種。
 保護水面対象種：水産資源保護法に基づく保護水面として指定された水域がある場合、その対象魚種。
 産卵場・生育場が藻場・干潟・サンゴ礁の特定域に該当する種
 魚介類の生態特性により、産卵場あるいは生育場のいずれかにおいて、砂浜性藻場、岩礁性藻場、干潟、サンゴ礁のいずれかを利用するものに を付した。岩礁性藻場、岩礁域のいずれも利用するものは特定の場に依存するとはしていない。
 選定結果： 、 、 全ての項目に該当する魚介類。

表 1.5 (1) 主要魚介類 (7 種) の生態特性

■: 分布域
: 分布域 (水深情報不足)

主要魚介類	卵形態	水深	産卵場	主な分布状態			幼稚仔魚の分布域 (底質環境)										
				卵	仔魚期	稚魚期	泥	干潟	砂・泥	アマモ場	砂・礫	岩礁	アラモ場	カジメ場	ガラモ場	コンブ場	その他藻場
スズキ	分離浮性卵	表層	岩礁域 (外海水の影響を受ける水深50~80m)	浮遊生活 (沿岸域)	浮遊生活 (沿岸域) (仔魚後期はアマモ場・河口域周辺に移動する)	底性生活					稚魚期 (体長12~60mmまで)						河川域・稚魚期 (体長12~60mmまで)
		表層下-10m															
		11-20m															
		21-30m															
		31-40m															
		41-50m															
51m~																	
マコガレイ	付着沈性卵	表層	沿岸域 (水深10~50mの砂泥・砂礫・岩礁)	海底塊状附着	浮遊生活 (変態期まで) (水深10m前後)	底性生活 (30m以浅)		稚魚 (30m以浅)	稚魚 (30m以浅)	稚魚 (30m以浅)							
		表層下-10m															
		11-20m															
		21-30m															
		31-40m															
		41-50m															
51m~																	
イシガレイ	分離浮性卵	表層	内湾 (水深30m以浅の泥質域)	浮遊生活 (沿岸域)	浮遊生活から底性生活へ移行 (仔魚期変態期以降)	底性生活 (10m以浅の浅所)		稚魚期 (10m以浅の浅所)	稚魚期 (10m以浅の浅所)								
		表層下-10m															
		11-20m															
		21-30m															
		31-40m															
		41-50m															
51m~																	
ヒラメ	分離浮性卵	表層	沿岸域 (水深20~50mの砂泥・砂礫・岩礁)	浮遊生活 (沿岸域)	浮遊生活 (変態期まで) (表層~中層20mに多く分布)	底性生活 (10m以浅)		稚魚 (10m以浅)									
		表層下-10m															
		11-20m															
		21-30m															
		31-40m															
		41-50m															
51m~																	

出典: 沿岸至近域における海洋生物の生態知見 (魚類・イカタコ類編) ((財)海洋生物研究所, 1991)
 新版魚類学 (下) 改訂版 (落合明・田中克, 1998)
 水産生物の生活史と生態 ((社)日本水産資源保護協会, 1985)
 主要対象生物の発育段階の生態的知見の収集整理 (平成18年度水産基盤整備調査委託事業報告書・水産庁, 2006)

表 1.5 (2) 主要魚介類 (7 種) の生態特性

■ : 分布域
 : 分布域 (水深情報不足)

主要魚介類	卵形態	水深	産卵場	主な分布状態			幼稚仔魚の分布域 (底質環境)													
				卵	仔魚期	稚魚期	泥	干潟	砂・泥	アマモ場	砂・礫	岩礁	アラメ場	カジメ場	ガラモ場	コンブ場	その他藻場	その他		
マダイ	分離浮性卵	表層	岩礁域 (水深30 ~ 100m)	浮遊生活 (沿岸域)	浮遊生活 (仔魚後期: 水深10m前後)	底性生活 (水深20m 以浅)			稚魚 (水深20m以浅)	稚魚 (水深20m以浅)										
		表層下-10m																		
		11-20m																		
		21-30m																		
		31-40m																		
		41-50m																		
51m ~																				
クルマエビ	浮性卵	表層	水深10m以深の沖合域					干潟 (25m以浅)	砂泥域 (25m以浅)											
		表層下-10m																		
		11-20m																		
		21-30m																		
		31-40m																		
		41-50m																		
51m ~																				
ガザミ	浮性卵	表層	砂泥域 (10m以浅)					砂泥域 (10m以浅)	砂泥域 (10m以浅)											
		表層下-10m																		
		11-20m																		
		21-30m																		
		31-40m																		
		41-50m																		
51m ~																				

出典: 沿岸至近域における海洋生物の生態知見 (魚類・イカコ類編) ((財) 海洋生物研究所, 1991)
 新版魚類学 (下) 改訂版 (落合明・田中克, 1998)
 水産生物の生活史と生態 ((社) 日本水産資源保護協会, 1985)
 主要対象生物の発育段階の生態的知見の収集整理 (平成18年度水産基盤整備調査委託事業報告書: 水産庁, 2006)

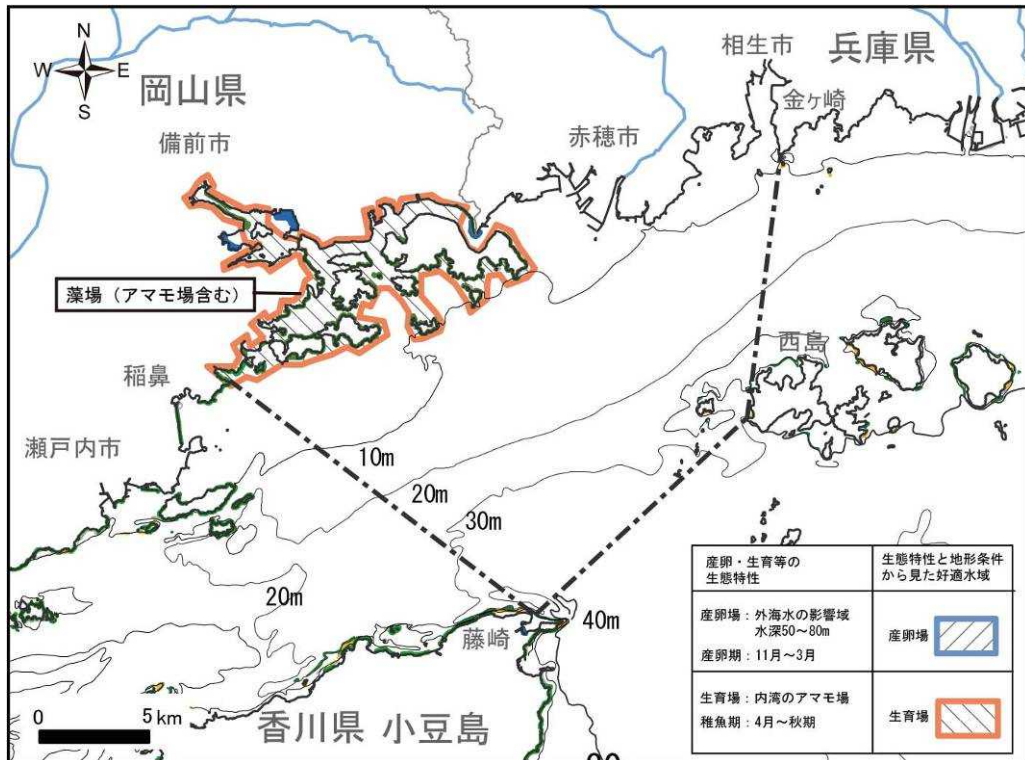


図 1.8(1) スズキの生態特性、海域の地理条件・水質条件からみた好適な水域（産卵場・生育場）

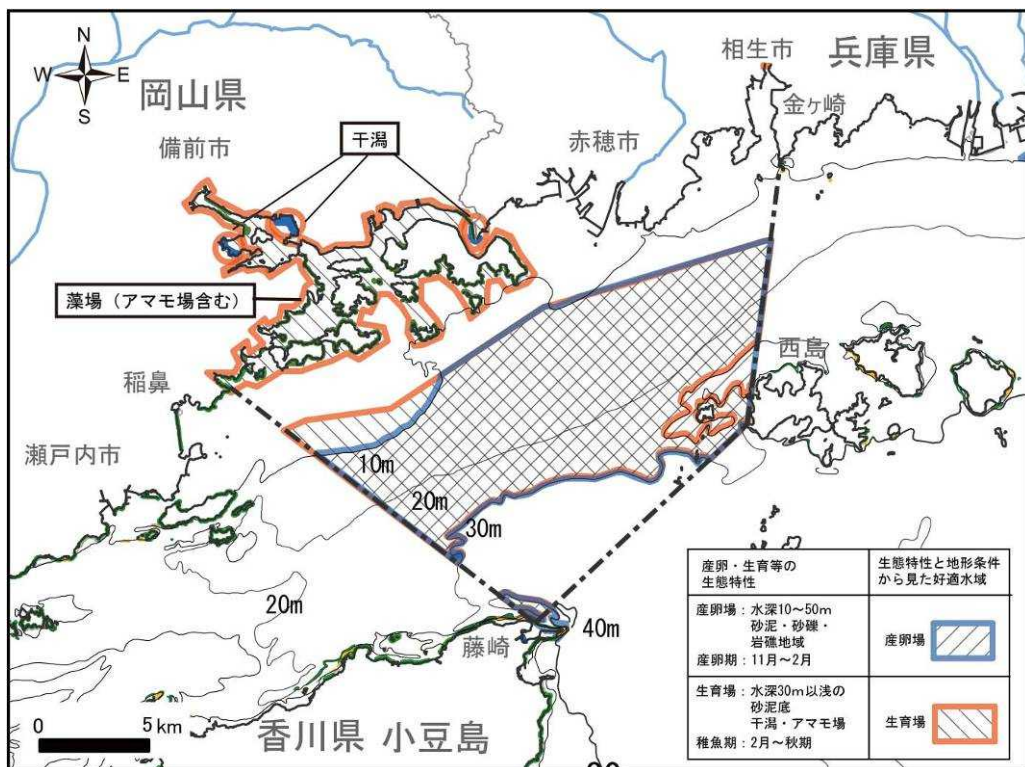


図 1.8(2) マコガレイの生態特性、海域の地理条件・水質条件からみた好適な水域（産卵場・生育場）

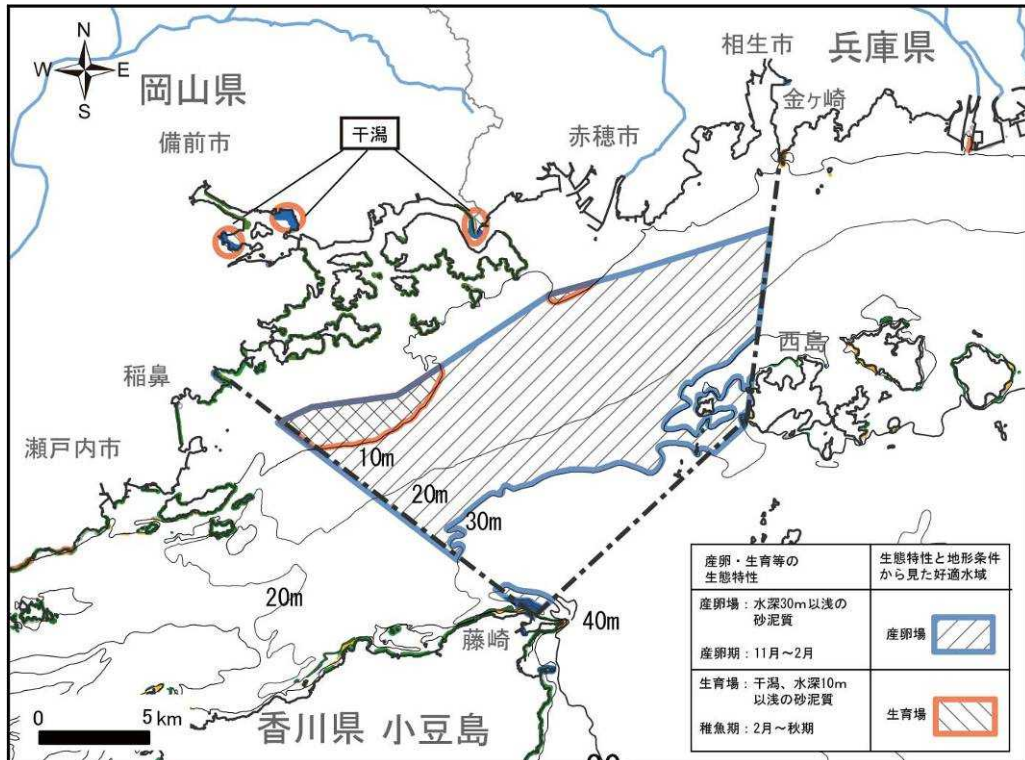


図 1.8(3) イシガレイの生態特性、海域の地理条件・水質条件からみた好適な水域（産卵場・生育場）

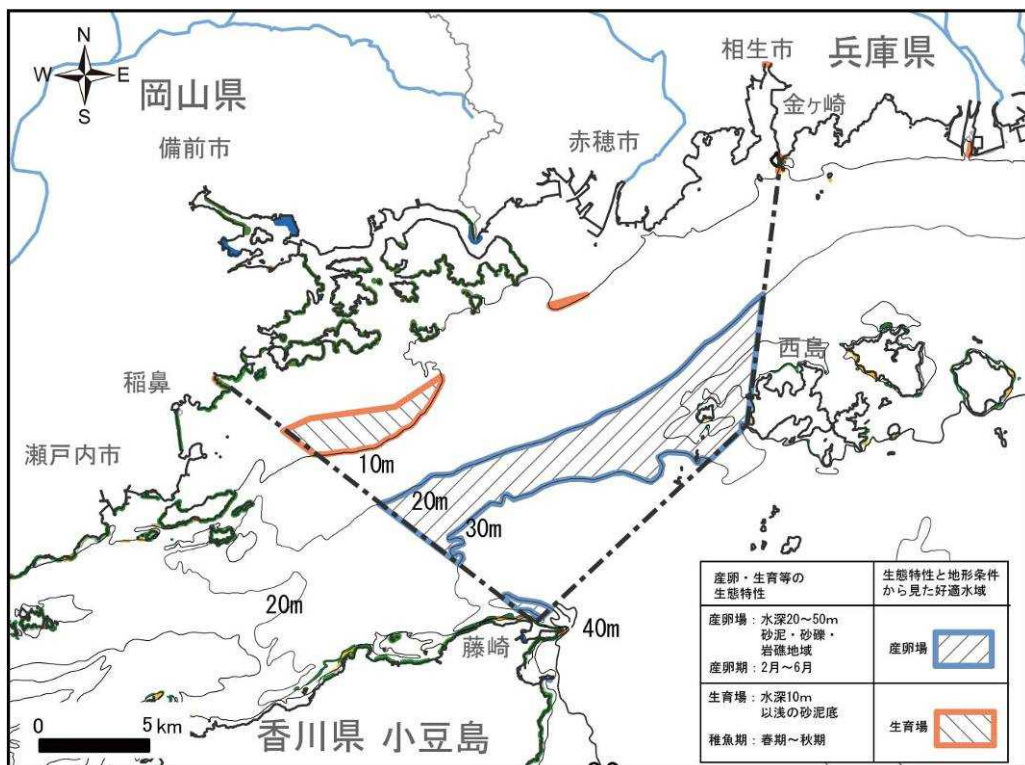


図 1.8(4) ヒラメの生態特性、海域の地理条件・水質条件からみた好適な水域（産卵場・生育場）

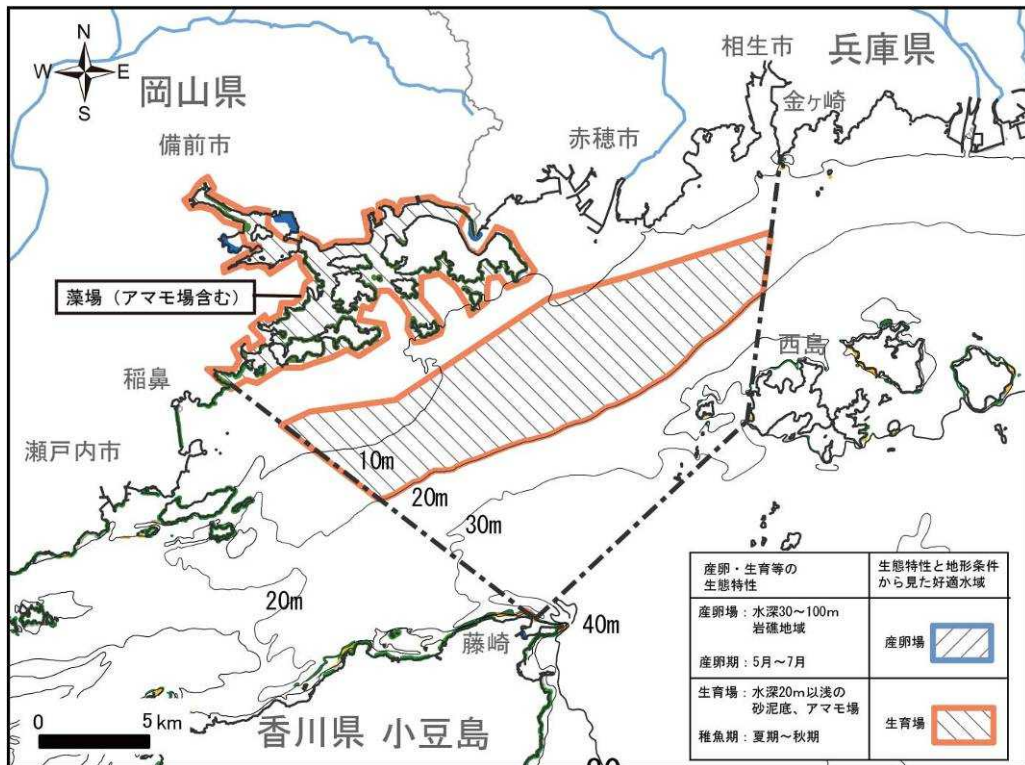


図 1.8(5) マダイの生態特性、海域の地理条件・水質条件からみた好適な水域（産卵場・生育場）

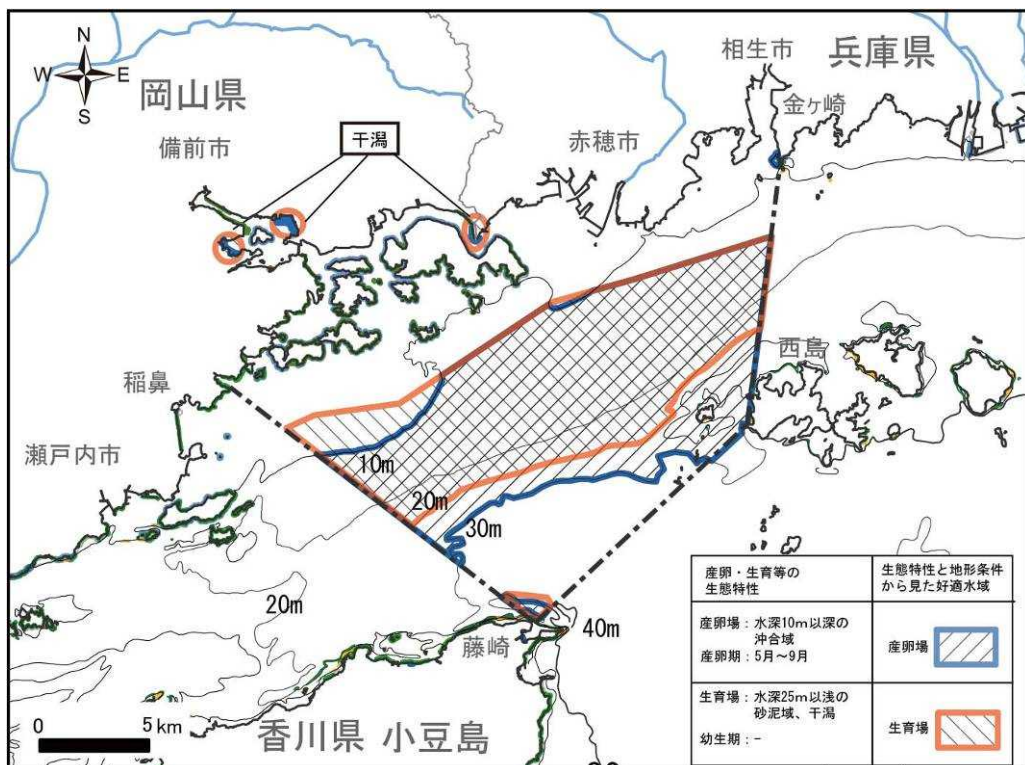


図 1.8(6) クルマエビの生態特性、海域の地理条件・水質条件からみた好適な水域（産卵場・生育場）

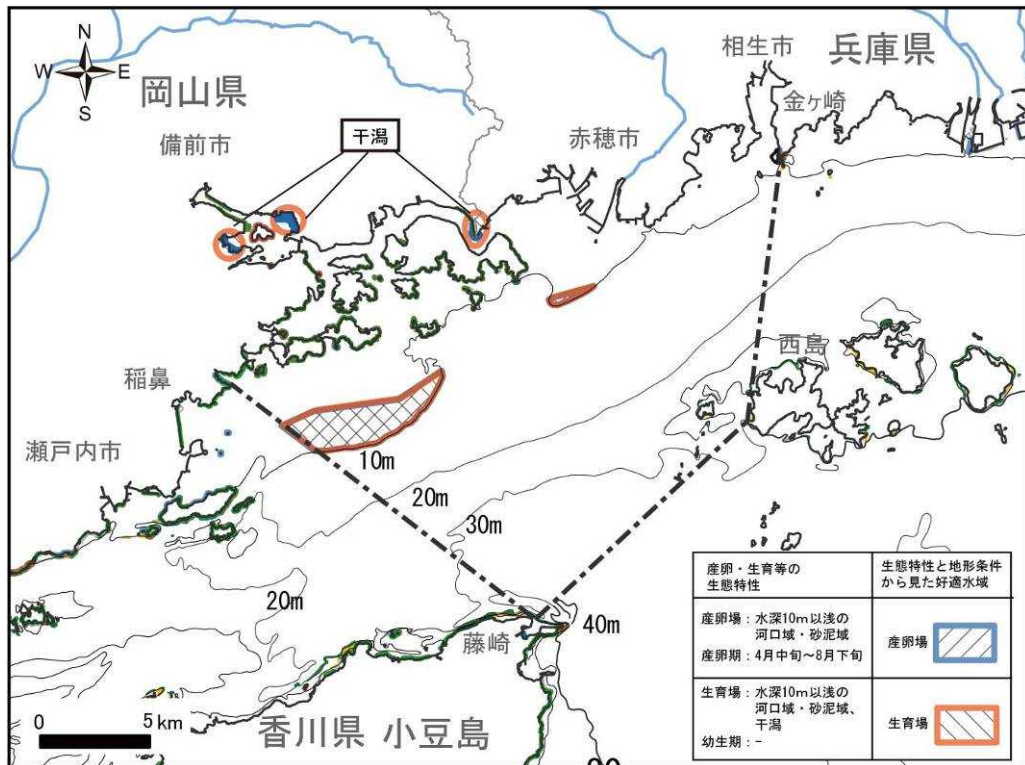
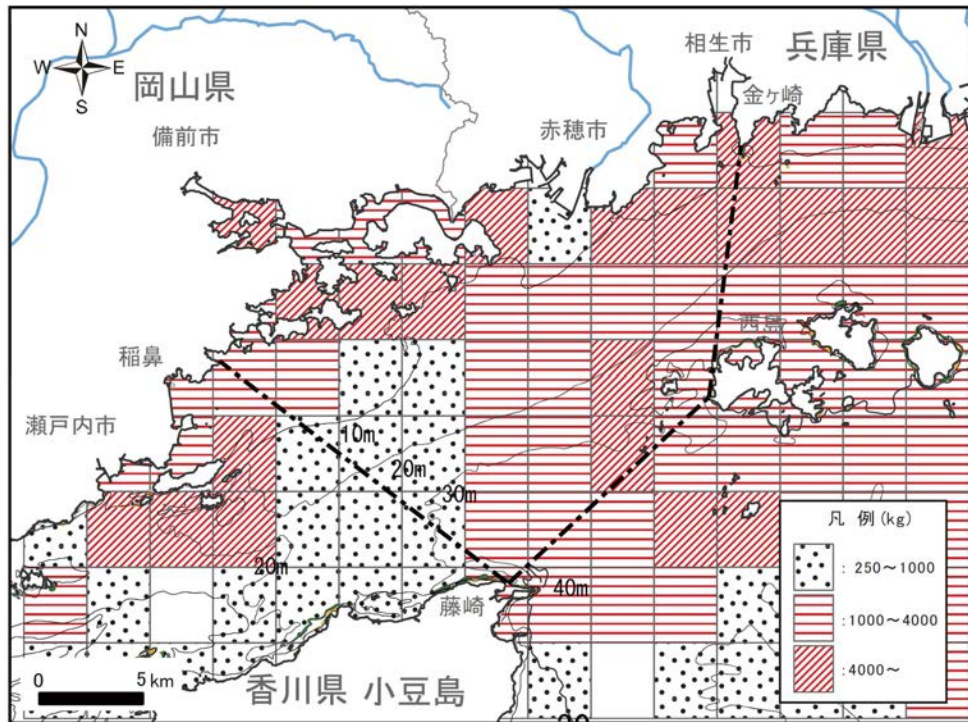


図 1.8(7) ガザミの生態特性、海域の地理条件・水質条件からみた好適な水域（産卵場・生育場）

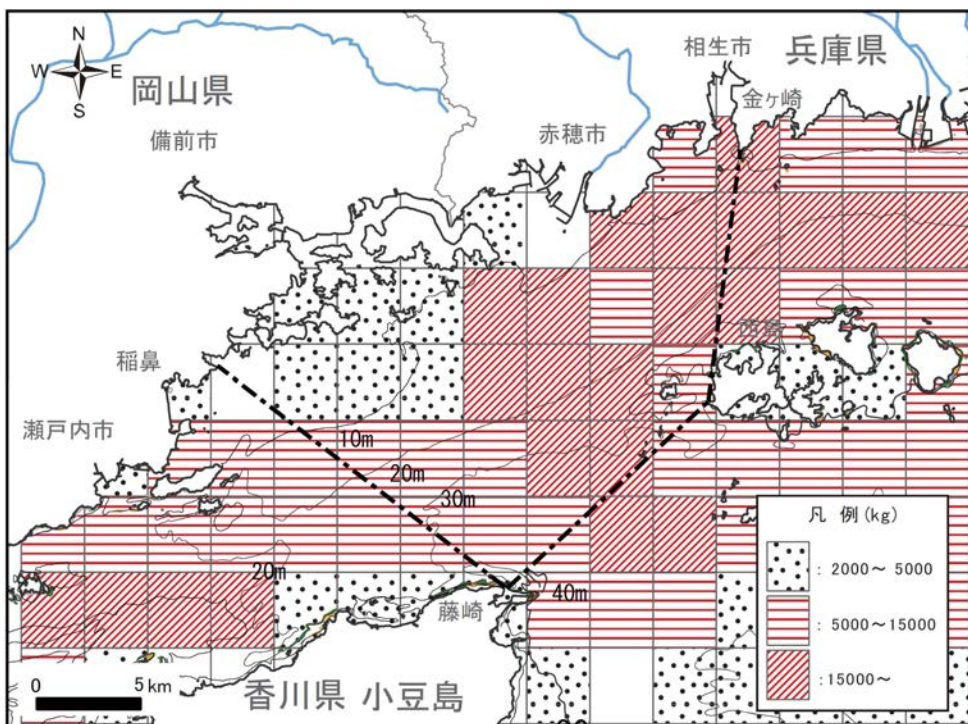
表 1.6 主要魚介類7種の漁場分布からみた干潟・藻場等の利用状況

魚 種	産卵場として利用されていると考えられる干潟・藻場等
スズキ	北西部島しょ部周辺の藻場（備前市・瀬戸内市）
カレイ類（イシガレイ・マコガレイ）	中央部の浅場（赤穂市・備前市）
ヒラメ	中央部の浅場（赤穂市）
マダイ	当該海域内に濃密な利用水域は無い。
ガザミ	中央部の浅場（赤穂市・備前市）
クルマエビ	北西部島しょ部周辺の干潟（備前市）、北東部（赤穂市）



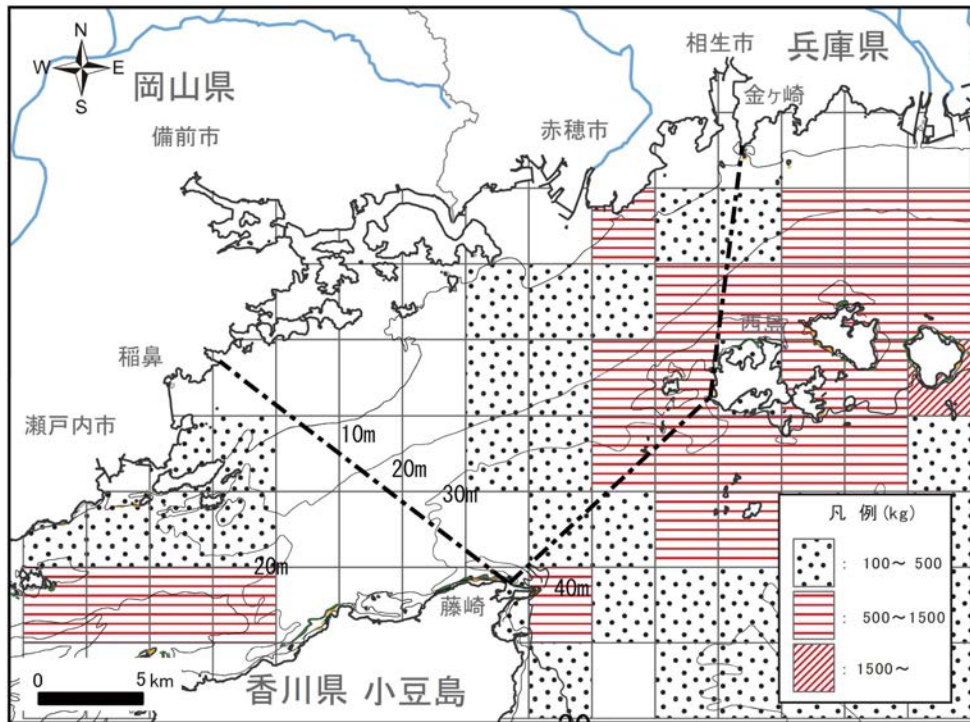
出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成 11 年 3 月）より作成

図 1.9(1) 主要魚種の漁場分布図（スズキ）



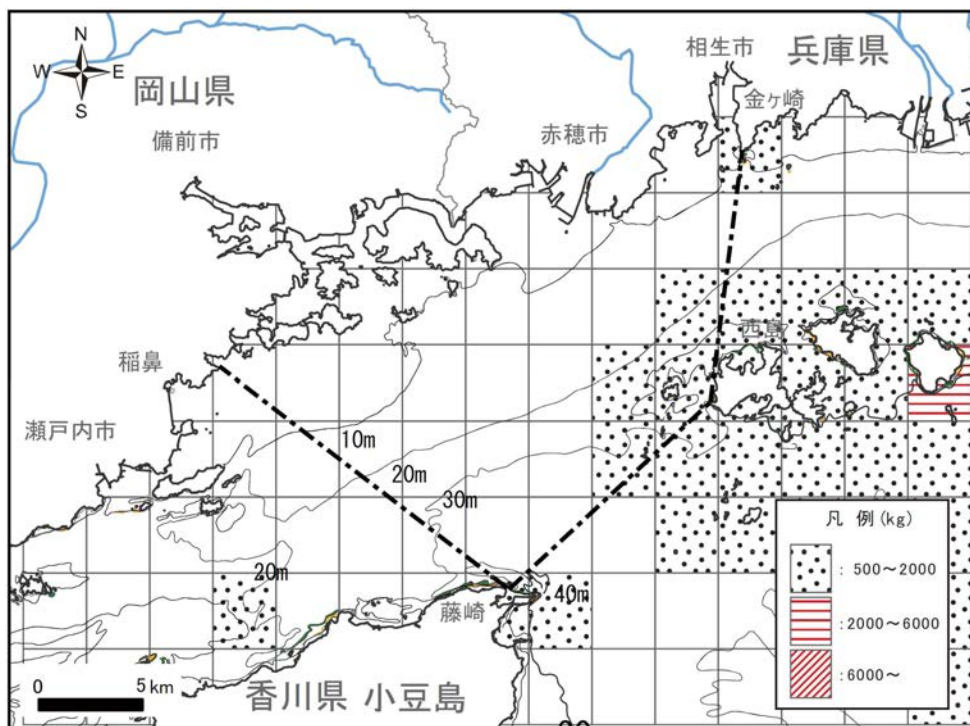
出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成 11 年 3 月）より作成

図 1.9(2) 主要魚種の漁場分布図（カレイ類）



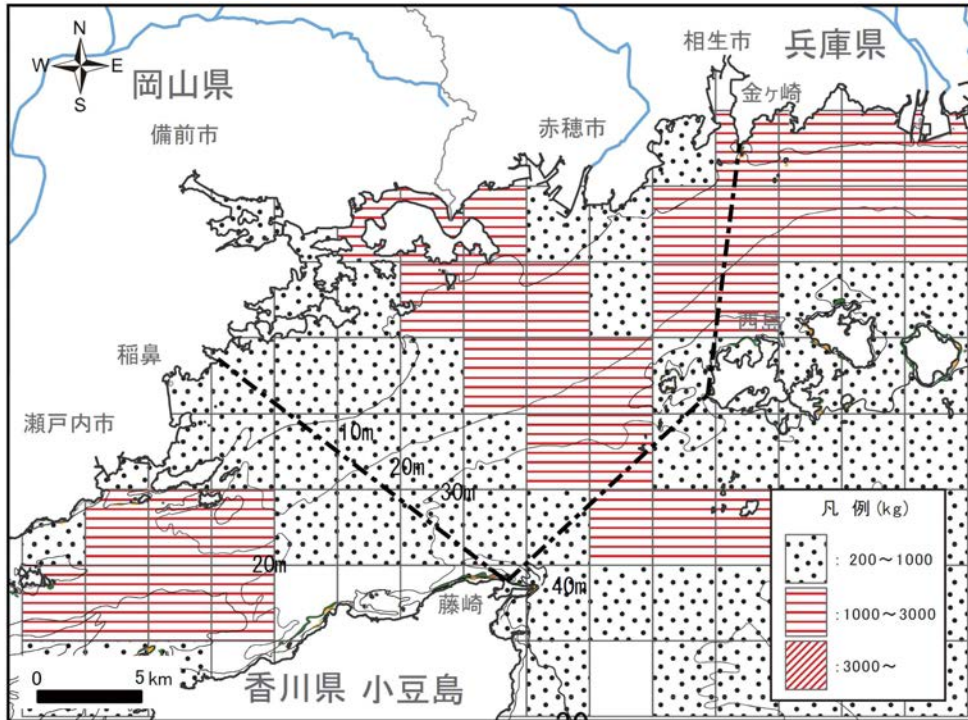
出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成 11 年 3 月）より作成

図 1.9(3) 主要魚種の漁場分布図（ヒラメ）



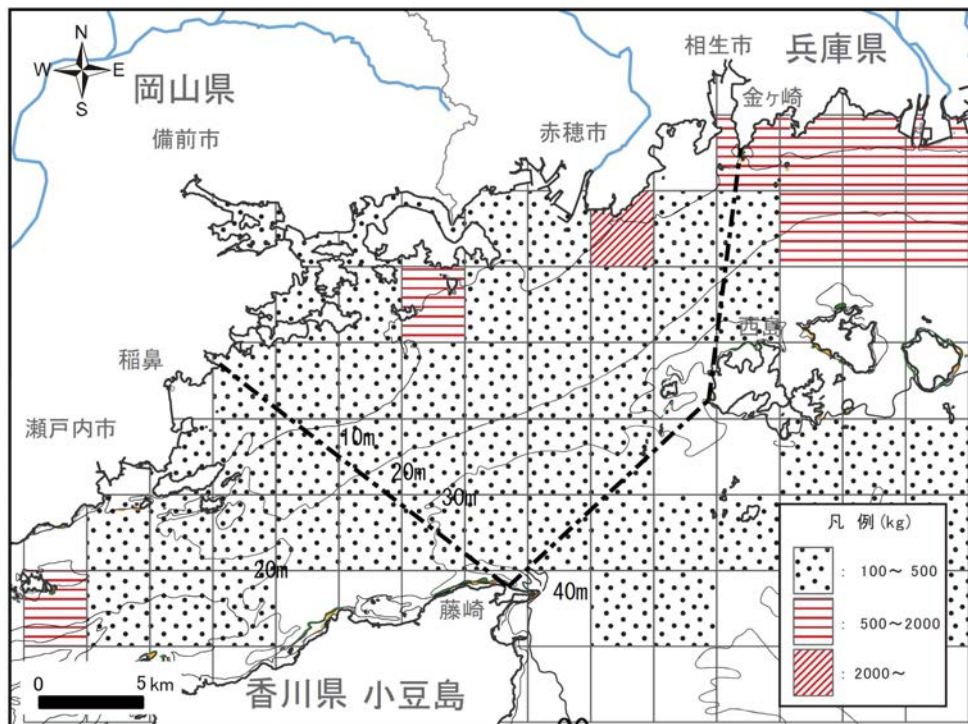
出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成 11 年 3 月）より作成

図 1.9(4) 主要魚種の漁場分布図（マダイ）



出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成 11 年 3 月）より作成

図 1.9(5) 主要魚種の漁場分布図（ガザミ）



出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成 11 年 3 月）より作成

図 1.9(6) 主要魚種の漁場分布図（クルマエビ）

表 1.7 主要魚種の産卵場及び生育場について

主要魚種名	内 容
スズキ	卵は未確認。スズキ及びスズキを含む可能性のあるスズキ属の稚仔魚は北西部と沿岸部において確認された。播磨灘北西部にはスズキの産卵に適した場所は存在しないとされ、生育場は北西部の藻場や干潟、沿岸部の浅場とされている。稚仔魚の確認状況から、北西部の藻場や沿岸部の浅場を生育場としている可能性が高い。
イシガレイ	卵は未確認。稚仔魚は北西部と沿岸部において確認された。播磨灘北西部の産卵場は東部～南部を除く水深 30m以浅の全域であり、生育場は北西部の干潟や沿岸部の浅場とされている。卵は確認されなかったが、孵化直後の仔魚が確認されていることから、北西部の藻場を産卵場及び生育場としている可能性が高い。また、この他に稚魚が確認された沿岸部の浅場も生育場をしていると考えられる。
マコガレイ	卵は未確認。稚仔魚は北西部と沿岸部において確認された。播磨灘北西部の産卵場は東部～南部を除く水深 10m以浅の全域であり、生育場は北西部の干潟や沿岸部の浅場とされている。卵は確認されなかったが、孵化直後の仔魚が確認されていることから、北西部の藻場や浅場を産卵場及び生育場としている可能性が高い。
ヒラメ	ヒラメ卵を含む可能性のある単脂球形卵 5 と稚魚が北西部において確認された。播磨灘北西部の産卵場は東部～南部を除く水深 10m以浅の全域であり、生育場は北西部の干潟や沿岸部の浅場とされている。卵や稚魚の確認状況から、北西部の藻場や干潟を産卵場及び生育場としている可能性が高い。
マダイ	マダイ卵を含む可能性のある単脂球形卵 4 が北西部と沿岸部において確認された。稚仔魚は未確認であった。播磨灘北西部にはマダイの産卵に適した場所は存在しないとされ、生育場は北西部のアマモ場や沿岸部の浅場とされている。今回確認された卵は播磨灘北西部周辺の海域から潮流によって移動してきた可能性が高い。稚仔魚は確認されなかったが、北西部や沿岸部の藻場や浅場を生育場としている可能性がある。
ガザミ	卵は未確認であった。稚ガニは北西部の干潟と沿岸部の浅場において確認された。播磨灘北西部での産卵場は北西部や沿岸部の水深 10m以浅の河口や砂泥域であり、産卵場付近の砂泥域が生育場とされている。稚ガニの確認状況から北西部と沿岸部の干潟や河口付近を産卵場や生育場としている可能性が高い。
クルマエビ	卵は未確認であった。稚エビは北西部の干潟において確認された。播磨灘北西部での産卵場は水深 10m以浅の浅場で産卵し、水深 25m以浅の浅場や干潟が生育場とされている。稚エビの確認状況から北西部の干潟を産卵場や生育場としている可能性が高い。

出典：「平成 21 年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成